

転落石

さる12月1日(土)に開催された小牧山城の発掘調査現地説明会は好天に恵まれ、たくさんの方にお集まりいただくことができました。約700名の参加者のなかには遠く東京や福岡からお越しになった方もおり、戦国時代の城や信長への興味に加え、小牧山城への関心の高さが伺われ、調査関係者一同身が引き締まる思いを新たにしました。この場を借りて御礼申し上げます。



小牧山城

はつぐわら版

第11号

20121213



さて、今回は調査の過程で出土する「転落石」についてご紹介します。石垣や石垣背後の裏込石が崩れて落ちたものは転落石として現場からは取り除きます。しかし、これらの石もかつては石垣を構成していた大切な石、歴史的な遺物です。



これらの石は、今後計画されている史跡整備工事で石垣などを修復する際に戻すため、調査地点ごとに一時保管しています。

平成22年度の調査ではこうした転落石のなかで「佐久間」と判読できる墨書が記された石が見つかり、日本最古の確認事例として注目されました。

このため、発掘調査と並行して、保管する石の全てを洗浄し、墨書や刻印の有無について調査を行っています。

膨大な量の石を対象に途方もない作業が続いていますが、たとえ1石でも見つければ大きな歴史の手がかりを掴める、重要な調査なのです。

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会